

陳 情 文 書 表

受理番号	陳情 4 第 1 9 号	受理年月日	令和 4 年 6 月 7 日
件 名	沖縄戦戦没者のうち目黒区からの出征者数を把握するよう求める陳情		

【陳情の趣旨】

今年、沖縄返還から 50 周年の年となりました。また 2 月 24 日にロシアによるウクライナ侵攻が開始され、より一層平和を願う事態になっています。そのため、今一度、戦争の悲惨さをできる限り、戦争を知らない人たちが知り意識を持ち続けることが重要だと思います。

昨年「沖縄戦犠牲者の遺骨を含む土砂を埋め立てに使用しないよう求める陳情」を提出し不採択とされましたが、その審議の中で平和の礎に刻まれる沖縄戦犠牲者の東京都出身者 3,521 名のうち、「目黒区からの出征者の数は把握していない」という応答が区行政からされていました。把握していないので目黒区で憂う問題ではないというのだとすると、残念です。東京都福祉保健局生活福祉部計画課で、そのデータが保有されており、各区の内訳を出すなど対応は可能と確認されていますから把握できたわけで、把握することが目黒区で意見を持つ事案かどうかの審議の前提であるべきでした。

戦争の悲惨さの中でも、沖縄戦の悲惨さは独特です。日本各地でも空襲により市民の命が奪われたとか外地での戦死者の被害も同じだという意見もあるようですが、それぞれの悲惨さから学ぶことは、平和への努力の 1 つだと思います。総務省の資料 1 つでも読まれることをお勧めします。そこにもある、「中部・首里戦線の戦闘で 6 万人の兵力を消耗した日本軍に対して米軍は、掃討戦の形をとって追いつめていった。南部一帯は那覇・首里・中南部からの避難民と敗走する日本軍の入り乱れる戦場と化した。」

このなかに目黒区の出身者は相当数いたことでしょう。

「沖縄戦では、日本軍の補助要員として、師範学校や旧制中等学校（中学校、高等女学校、実業学校）の学徒たちも動員された。当時、沖縄にはこれらの学校が 21 あった。

動員の対象となった学年は学校によりバラバラだったが、男子学徒の鉄血勤皇隊には 15 歳から 18 歳が動員され、通信隊には中学校 2 年（14 歳）が動員された。鉄血勤皇隊は、陣地構築や糧秣運搬、立哨などの日本軍の補助任務にあたり、通信隊は、電話線の架設や補修、雑役など通信部隊の補助任務に従事した。

女子学徒は 15 歳から 19 歳で、陸軍病院や野戦病院などで負傷兵の看護活動にあたった。

全体では男子学徒が約 1,500 人、女子学徒が約 500 人、併せて約 2,000 人動員されたが、激しい戦火の中、男子学徒約 800 人、女子学徒約 200 人にものぼる多くの若者が亡くなった。」

14歳から19歳の住民の少女・少年たち約2,000人が動員され、半数の約1,000人の少女・少年が命を落としました。

しかし目黒区からの出兵者も、この子達とそれほど大きく年も違わなかったかもしれません。それぞれが、家族を想いながら亡くなりました。

何歳の若者たちが何人この戦闘に動員され命を落とし、遺骨は今もそこに残るのか、それを区が認識していただきたくお願いします。

以上の理由から以下のことを要請します。

【陳情事項】

東京都福祉保健局生活福祉部計画課に保有されるデータ(*1)から、平和の礎に刻まれる東京都出身者のうち目黒区出身者数および年齢(*2)の内訳を把握してください。

(*1)ほかの保有元またはデータソースでも可

(*2)昭和20年6月23日時点、あるいは出征時、などいつ時点かは任せます